



つながることの大切さが・・・

授業中、子どもたちがタブレットに声をかけています。見ると、そのタブレットの画面には、休んだお子さんの姿が映っていました。休んだお子さんがオンラインで授業に参加してくれていたのです。その様子を見て、「つながる」ことの大切さを改めて感じました。

「家で授業の様子をタブレットで見ると、一人で学習するより頑張っていました。」「先生や友達と会話を楽しんでいました。」など、保護者の方々からこのような声が聞かれました。また、担任が急用で休んだ時、子どもたちとオンラインでつなげてみました。画面には担任の姿が写り、先生の声で指示や説明があり、それを聴きながら子どもたちが学習に取り組んでいました。補欠の先生が学習をサポートし、子どもたちが安心して学習している姿がみられました。

しかし、このオンライン授業の取り組みはまだ手探りです。成果のほどはまだまだ分かりません。ただ、子どもたちの助けになっていることは間違いのないことです。タブレットで先生や友だちとつながることが子どもの安心や意欲を高めることを再認識しました。「顔を見てコミュニケーションをする。」そんな当たり前のことが大切だと改めて感じました。

このオンライン授業の実現は、保護者の方の子どもたちへのサポートがあったからこそできたことです。これまでも、タブレットの持ち帰り、12月の親子でつながる会、1月のオンラインつながる会など・・・ご理解とご協力に改めてお礼申し上げます。

オンラインで取り組むことで・・・

まん延防止重点措置期間が3月6日まで延長となりました。日程が詰まっている3学期ですから、いろいろなことを延長できる日数はありません。そのため、目標や目的を変えずに方法を工夫できないものかと考えました。中止にするとゼロとなりますから、子どもたちの学びを止めないようにオンライン開催としました。オンライン全校朝会、オンライン立会演説会などです。

例えば、児童会役員立会演説会及び選挙では、自分たちで学校の代表を選ぶことを通して、学校生活をより楽しくより豊かにしていくのは子どもたち自身であることの自覚を高める機会＝学習となっています。今までは体育館に全校児童が集まり、その前で演説する・話を聞く活動を行っていました。今回、そのような経験はできませんでしたが、オンラインで自分の主張を全校児童に発信したり、聞き手側の児童は話をよく聞いて代表を選び、投票するといったことができました。

オンラインで取り組むことにより、今までの活動の意義を再認識でき、オンラインのよいことなども見えてきました。私たちにとっては来年度への教育活動や学校運営へのヒントを見つけることもできました。

感謝を伝えよう

2月が終わり、6年生にとってはよいよ卒業。中学校への進学が近づいてきました。在校生にとっては、6年生とのお別れが近づいてきました。今まで一緒に掃除をしたり、委員会をリードしてくれたり、遊んでもらったりなど、1～5年生には6年生とたくさんの関わり、たくさんの思い出があります。

お世話になった6年生に感謝を伝えるための「6年生を送る会」の準備に全校で取り組んでいます。委員会の時間には、飾り付けの準備をしたり、また、学年毎に分担して、企画をしたり、プレゼント、カードづくり等を行っています。

3月4日には、それぞれの取り組みで全校が一つとなって6年生にオンラインで感謝を伝えます。きっと6年生にとっても、在校生にとっても、思い出深い会になるに違いありません。